

第2回新唐津市民会館（仮称）管理運営計画検討委員会 会議概要

日時：令和5年8月28日（月）13:00～15:00

場所：唐津市役所4階 大会議室

・出席委員：13名（◎は委員長）

<学識経験>

- ◎五島 朋子：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 教授
竹田 英司：長崎県立大学地域創造学部実践経済学科 准教授

<有識者>

- 田島 龍太：唐津市文化財保護審議会 会長（欠）
坂口 安政：九州地区照明・音響・舞台事業者協会 相談役
深澤 功：公益財団法人九州交響楽団 元音楽主幹
糸山 裕子：福岡県立ももち文化センター 館長

<関係団体>

- 山根 路子：一般社団法人唐津観光協会 事務局長（欠）
吉田 和久：唐津商工会議所 事務局長
小形 昌和：公益財団法人唐津市文化事業団 事務局長
中山 忠幸：唐津曳山取締会 管理委員長
大西 康之：唐津曳山取締会 総務委員長
甲斐 信太郎：唐津地区小中音楽部会 教諭
北口 富子：唐津演劇集団「響」
田中 恵利子：ファミリーユバレエスタジオ 代表

<行政>

- 竹下 正博：佐賀県立名護屋城博物館 副館長

・事務局

唐津市 地域交流部 観光文化施設課

・傍聴者

5名

・協議資料：次第

座席表

委員名簿

資料1（協議スケジュール 修正版）

資料2（改築設計 案）

資料3（利用計画 修正版）

参考資料3-2（数値目標の根拠）

資料4（管理運営計画 部分案）

・議事概要：以下のとおり

（1）協議スケジュールの変更

●事務局（資料1により説明）

- ・第2回委員会は7月開催の予定だったが、8月に変更となった。
- ・それに伴い、第3回から第6回委員会の日程も変更となる。
 - ➡協議スケジュールが変更となる旨を委員が了承。

（2）新唐津市民会館（仮称）の基本設計

●事務局（資料2により説明）

○坂口委員

- ・ホール客席は、2階席から入り階段を下りて1階席へ下る形となっているが、照明を落とした時など、暗い状態で歩くのに安全性に問題はないか。足元が暗い場合は、足元あかりをつけるなど、安全に配慮してほしい。

●事務局

- ・安全には十分配慮して検討を進めていく。

（3）新唐津市民会館（仮称）の利用計画修正案

●事務局（資料3により説明）

【曳山展示場の目標入場者数】

○竹田委員

- ・P28に目標入場者数が92,000人とあり、その根拠は、①川越まつり会館入場者数97,565人、②半田市立博物館入場者数87,520人から算出したと説明があった。
- ・「山・鉾・屋台行事」一覧表（参考資料）で、川越まつり会館（入場料300円）の入場者数97,565人は、対人口比28%（川越市人口354,571人）。半田市立博物館（入場料無料）の入場者数87,520人は、対人口比74%（半田市人口117,884人）。旧唐津市民会館（入場料310円）の入場者数74,801人は、対人口比63%（唐津市人口117,373人）。

- ・ 入場料有料から鑑みて、川越まつり会館の対人口比 28%入場者数を参照し、目標入場者数は 32,864 人（唐津市人口 117,373 人比 28%）が妥当ではないのか。目標入場者数 92,000 人は、旧唐津市民会館入場者数 74,801 人より、17,199 人も多い。17,199 人増える根拠はあるのか。

●事務局

- ・ 目標入場者数の 92,000 人という数字は、実績から積み上げて出した数値ではないので、根拠の回答は難しいが、唐津城の入館者数は約 13 万人となっている。
- ・ 例えば市内の観光文化施設を周遊して、楽しんでいただくような提案や、旅行会社にむけて PR していきたいと考えており、現在の想定は無理のない数値ではないかと考えている。

○竹田委員

- ・ 目標入場者数 92,000 人は、減免利用者も含む値か。

●事務局

- ・ 減免利用者も含まれている。H31 年度の実績だと、全利用者のうち、減免利用者の割合が約 5.2%となっている。

【曳山展示場の入場料】

○大西委員

- ・ 入場料の検討はどのようになっているか。

●事務局

- ・ 第 3 回、第 4 回の委員会の収支計画の部分で提案させて頂く予定。

○大西委員

- ・ 本来は入場料の検討を行った後に目標入場者数が出るのではないか。
- ・ 料金設定に関しては安すぎても展示物が安く見られるといった話も聞いたが、どのように考えているか。

●事務局

- ・ 市としての料金設定の考え方は、維持管理コストを考慮し料金を算出することとなっている。
- ・ それで算出した金額をベースに、近隣の同規模施設の料金や、市内の他の観光文化施設の料金（市内で最も料金が高いのは玄海海中展望塔の 570 円）などとも調整を図りながら、設定する予定。

○大西委員

- ・ 市内在住者と市外者で、料金設定を変えるとことも考えていただければと思う。

【共用部への市内の祭り展示】

○大西委員

- ・市内の祭り展示について、例えば、ガメおどりの衣装などを、時節柄に合わせて実物展示する考えはないか。

●事務局

- ・直射日光やスペースの確保など、まだ正確に判明していない部分があり、検討中である。

【曳山展示場の曳山展示】

○大西委員

- ・曳山の展示にアップライトは効果的ではないと思う。実際に曳山を曳く時は、日中では自然光で、宵山では提灯で上から光を当てている。下からの明かりでは曳山の良さが伝わらないと考える。

●事務局

- ・照明の詳細については、これから、シミュレーションを経て決定していくこととなる。
- ・アップライトの記載は、展示設計資料から抜粋しており、内容を確認したい。

○竹下委員

- ・展示設計事業者と話すときに、現場をよく知っている方の意見を聞きながら、実際に試験をしながら進めていくとクリアできると考える。

【くunchシアター】

○大西委員

- ・くunchシアターのモニターはどの程度の高さか。

●事務局

- ・スクリーンで3mの高さを予定している。

○大西委員

- ・6.5mの円形のシアターで、3mのスクリーンに天井から映像を映写した場合、見ている人の影がスクリーンに映りこんでしまうのではないか。

○竹下委員

- ・短焦点プロジェクターで上から投影すると、お客様に干渉せず映像が映せるので、予算があれば解決できる技術的な問題だと思う。
- ・ただし、展示設計事業者の協議の際には、事務局が把握しておかないと、想定と異なるものが完成してしまうこともあるので、注意したほうがよい。

【くunchi体験コーナー】

○大西委員

- ・体験コーナーのタッチパネルモニターの大きさはどの程度か。

●事務局

- ・まだ決まっていないが、指で触って動かせる程度のサイズを想定している。

○大西委員

- ・そこまで大きくないのであれば、各曳山の前にモニターを設置し、「これがまわるとどうなる」とした方がイメージがわくのではないか。

【くunchi料理】

○大西委員

- ・くunchiの魅力は、曳山もさることながら、くunchi料理も魅力のひとつ。
- ・くunchi料理についてどのように展示していくのか。

●事務局

- ・くunchi料理の展示については、料理以外にもくunchi前の賑わいや忙しさ等、くunchi当日に至るまでのストーリーを見せたいと考えている。
- ・くunchi体験コーナーはスペースも限られているため、今の検討の方向性としては共用部のタッチパネルモニターを使って、映像等で表現したいと考えている。

【小ホールの活用】

○北口委員

- ・小ホールの大きさが、旧唐津市民会館の大会議室よりも小さい。
- ・こども劇場などは、旧会館では、大ホールではなく大会議室を使用していたが、大ホールの利用想定55%というのは、今まで大会議室で行われていた催しもホールで行う想定での55%なのか。
- ・旧会館の大ホールの利用率は何%程度だったのか。

●事務局

- ・旧会館の大ホール利用率はH29年度で36%～40%。
- ・大会議室は40%程度となっている。

○五島委員長

- ・大会議室で行われていた催しは、今後は大ホールに移動するという想定か。

●事務局

- ・旧唐津市民会館の大会議室は332㎡だった。よって、140㎡の小ホールはこれまでのイメージでは使えない。敷地面積、延床面積が限られた状況の中、140㎡のリハーサル室を備えるのが限界だった。
- ・大会議室を使っていた方は、新会館の大ホール（の1階部分のみ）を使用することも検討いただきたいと思う。

(4) 新唐津市民会館（仮称）の利用計画修正版

●事務局（資料4により説明）

【わかりやすい管理運営計画】

○竹田委員

- ・P4「事業費や維持管理費をはじめとする運営経費はどの程度必要なのかなどを記載」とあるが、ここにも「〇億円」などの費用感を記載したほうがわかりやすいのではないかと。 →加筆したい。（事務局）

○大西委員

- ・基本方針③、「唐津くんち曳山行事」「山車」「唐津曳山」という表現はおかしい。 →修正したい。（事務局）

【事業費の妥当性】

○竹田委員

- ・管理運営基本計画なので、事業予算についても示さねばならない。その上で、各事業は、予算が妥当かも含め評価せねばならない。
- ・国土交通省「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針」（H21年6月）では、「準現在価値」「費用便益比」「経済的内部収益率」という3つの評価指標が示されている。公開・非公開は別として、求めに応じて提示できる準備は必要かと思う。
- ・国土交通省が求めているように、費用便益比が1を超えているか否かは大事な根拠づけになるので、指標を準備していただければと思う。 →確認し、指標としての設定を検討したい。（事務局）

【会員制度の運営】

○糸山委員

- ・P13、発信事業「会員制度の運営」について。「有料・無料の会員制度を設ける」とあるが、文化施設のオープン時には友の会会員は増えるが、5年、10年経つごとに減っていく。福岡県内の文化施設で定期的におこなっている北部九州ネットワーク会議で「友の会を閉めるにはどうしたらいいか」というテーマが定期的に話題になる。
- ・有料の友の会のインセンティブは、著名人のコンサートチケットが優先的に手に入るというような点だが、コロナ禍においてコンサート自体がなくなり、そのインセンティブが感じられなくなっている。
- ・また、有名な方が来るからチケットを買うという世代の年代が上がってきており、足を運べない人も増えている。
- ・有料の友の会に関しては同規模の施設にリサーチした方がよい。一度会をつくると、ずっと継続させねばならなくなる。 →再考したい。（事務局）

【複合施設を活かした事業】

○五島委員長

- ・事業計画について、曳山展示場と市民会館の機能が合わさることによる相乗効果というのであれば、部門毎に事業計画を作るだけでなく、その二つの機能がどう融合してどのような事業をするのかの記載が必要と考える。 →加筆を検討したい。(事務局)

【展示替え】

○小形委員

- ・曳山展示事業、共用部の「展示コーナーは定期的な展示入れ替えを行います」「くんちシアター、くんち体験コーナーの運営を適切に行います」、「唐津の魅力を発信する常設展示を実施します」とあり、言葉としてはわかりやすいが、当初展示した内容が変わらない施設は多い。3年に1度、毎年、など、自分たちの目標として展示替えの目安を記載したほうがよい。 →加筆を検討したい。(事務局)

○五島委員長

- ・展示の入れ替えを行うならば倉庫が足りないのではないか。
- ・収蔵スペースについてはもう少し検討が必要だと思う。
→検討したい。(事務局)

【オーケストラピット】

○深沢委員

- ・市民の文化活動が活発になる中で、オーケストラピットの必要性はあると考えている。
- ・今からでもオーケストラピットを備えることが可能か。

●事務局

- ・オーケストラピットについて様々な検討は行ったが、設置しない設計としている。(今からの設置は、金額的にも時間的にも難しい。)

○甲斐委員

- ・1列目、2列目の座席を可動式（手作業で取り外し可能）とすると、本格的ではないがステージの下に楽団を配置し演奏することができる。以前、吹奏楽とクラシックバレエの共演を行ったが、そのような形で対応した。そういったことはできないか。

○五島委員長

- ・改めて聞くが、座席を1～2列目を可動式に変えることはできないか。

●事務局

- ・今からの変更は難しい。

【市民利用の市民会館】

○小形委員

- ・貸館について、営利目的の興行を誘致するのか、市民利用を中心に考えるのか。

○五島委員長

- ・機能的にはホールの規模感からも、市民の方々の活動を支援したり、育成するのが事業計画に示されていると思うがいかがか。

●事務局

- ・市民の文化芸術活動の場として、いかに利用していただけるかという点を軸として、検討を進めている。

○小形委員

- ・ならばわかりやすく、市民利用が主軸だということを、より強調して記載してはどうか。 →修正したい。(事務局)

【新会館の人材】

○糸山委員

- ・運営体制については、利用計画 P34「事務責任者、事業責任者、アドバイザー」と書かれているが、市民会館に加え曳山展示場がある。博物館的な知識を持っている人も運営体制の中に入る予定で計画しているか。

●事務局

- ・学芸員までは想定していなかったが、視野に入れて運営体制について提案させていただければと思う。

○糸山委員

- ・文化財を扱う施設であり、地域やお祭りに関して専門的に配慮できる人材が必要ではないかと考える。

○五島委員長

- ・事業計画の中の創造支援事業で、市民の方たちの様々な活動についての相談対応や活動支援を行うとのことだが、そのためには地域の方々の活動を熟知していたり、文化に限らず、様々な場所でどのようなことが行われているか、唐津のことに詳しい人が必要となる。
- ・的確な運営ができる人材が必要なので、文言としてあるとよい。

【事業の評価指標】

○竹田委員

- ・それぞれの事業に目標値の設定がない。一般的な政策評価では、例えば相談件数 100 件などの目標値が示されている。目標値の達成/未達成とその理由を検証するのが政策評価であろう。次回までには目標値を入れていただければ議論が深まるのではないか。
→加筆を検討したい。(事務局)